



国際ロータリー第2790地区 千葉南ロータリークラブ会報

THE ROTARY CLUB OF CHIBA SOUTH



■創立■ 1964年3月2日 ■例会日■ 毎・金曜日12時30分 ■例会場■ オークラ千葉ホテル
 ■会長■ 小林 透 ■幹事■ 廻 辰一郎 ■会報委員長■ 石井 慎一
 ■事務局■ 〒260-0027 千葉市中央区新田町12-1 トーシン千葉ビル7階 (☎043-245-3204)

2016-17年度

第2580回

平成29年3月17日(金) 点鐘12:30 <晴れ>

- ◆ロータリーソング『手に手つないで』
- ◆四つのテスト ~言行はこれに照らしてから~
 1. 真実か どうか
 2. みんなに公平か
 3. 好意と友情を深めるか
 4. みんなのためになるか どうか

◆お客様紹介

- ◇本日のゲストスピーカー
長崎県美術館 館長 米田 耕司様
- ◇国際ロータリー日本青少年交換委員会
保険担当 津留 起夫様
- ◇市原中央ロータリークラブ
会長 三好 和彦様
井上 賢司様

◆会長挨拶及び報告 小林 透 会長

皆様こんにちは。本日は、ゲストの方が大勢お見えになっておりますので簡単にご挨拶のみさせていただきます。

◆ご挨拶

- ◇国際ロータリー日本青少年交換委員会
津留 起夫様

皆様こんにちは。千葉南RCさんには何度もメーキャップに伺っておりますが、いつも温かくお迎えいただき有難うございます。貴クラブより、次年度の青少年交換委員長として三神さんが出られますので、バックアップのほうをぜひともよろしくお願ひ申し上げます。

- ◇市原中央RC・会長三好和彦様

皆様こんにちは。当クラブは、市原ロータリーク



ラブをスポンサーとして、今年で30周年を迎えます。本日は、創立30周年記念式典及び祝賀会のご案内にやってきました。

日時:平成29年5月20日(土)

記念式典 17:30より

祝賀会 19:00より

会場: オークラ千葉ホテル

ぜひ大勢の皆様にご出席いただき、場を盛り上げていただければと思います。宜しくお願い致します。



◆委員会報告

社会奉仕委員会より (酒井 秀大委員長)

3月31日(金)の例会の前に創立50周年記念事業で植樹した桜の状況を見に行きたいと思ひます。10時30分に都川水の里公園にお集まりください。

◆退会ご挨拶

瀧川 誠会員

皆さんこんにちは。

私は、4月1日付けで人事異動のため、岩手県盛岡市へ行くことになりました。千葉南ロータリークラブでは2年間という短い間を在籍しておりました。その間、何が出来たのかなと反省しておりますが、唯一、ライラセミナーへの参加協力だけは出来たのではないかと感じております。

皆さんにはお声掛けしていただき仲良くして下さい、本当に有難うございました。盛岡へ行きましてもロータリークラブの会員となり、奉仕活動に励みたいと考えております。後任者も参りますので、ぜひお仲間になさせていただきます。本当に有難うございました。

◆幹事報告

次週24日(金)は、休会になります。

◆ニコニコボックス報告

《市原中央RC 会長 三好和彦様、井上賢司様》

今年の5月20日、市原中央Rロータリークラブは創立30周年を迎えます。皆様のお越しをお待ちしております。

《小林 透会長、廻 辰一郎幹事》

春光おだやかな季節となりました。

さて、本日のゲストスピーカーの米田様におかれましては、長崎からわざわざお越しいただき、有難うございます。一昨年前に親睦旅行で長崎を訪れたことが昨日のように思い出されます。後ほど卓話を宜しくお願い致します。

市原RC・津留様、市原中央RC・三好会長、井上様、ようこそお越し下さいました。どうぞごゆっくりとお過ごし下さい。

本日のニコニコボックス	6,000 円	累計	279,000 円
金の箱	0 円	累計	14,069 円

◆出席報告 (会員数51名)

出席者数	欠席者数	ピンター	3/3 修正出席率
29名	22名	4名	72.55%

千葉市内例会変更のご案内 [メーキャップにご利用下さい。](#)

千葉RC	月	4/3・4/17	三井ガーデンホテル千葉
千葉西RC	火	4/18・4/25	センシティブタワー「東天紅」
千葉幕張RC	火	4/18	アパホテル&リゾート東京ベイ
新千葉RC	水	4/5	京成ホテルミラマーレ
千葉北RC	水	4/5・4/26	ホテルポートプラザちば
千葉中央RC	木	4/6	三井ガーデンホテル千葉
千葉港RC	木	4/13・4/27	京成ホテルミラマーレ

本日の卓話

演 題⇒「日本と西洋の美意識の差
—日本文化の魅力—」

卓話者⇒ 長崎県美術館 館長 米田 耕司様



私は、長崎ロータリークラブへ長崎美術館長として在籍しております。恐らく、美術館長としては全国にあまりいないと思います。

長崎ロータリークラブは、結構古いクラブ(1936

年創立)で、毎週木曜日に例会を行っております。

千葉は、私の地元でもありますし、今日は縁の深いところでお話し出来て光栄に思っております。

《はじめに —美術への目覚め—》

3万年前まで並走した旧人ネアンデルタール人が滅び、我々新人ホモサピエンスが生き残ったのはな

ぜか。原始の昔、人間が道具をつくり始める一方で、道具でも実用品でもないものを作ったことに触れて、我々ホモサピエンスが生き残ったのは絵画と彫刻を持っていた文化の差だと言われています。例えば、机や椅子もデザインする力があつたらできたということです。やがてマンモスの骨に毛皮をかぶせたような住居で暮らしはじめ、洞窟に暮らし、その壁に壁画を描くようになりました。そこに神像のような超自然的なものを表現し安心感を覚えました。このことが文明の中心になったという絵画誕生の仮説は、美術が人類に深く関わり、人間の想像力を育み成長を促したことを意味します。

《日本と西洋の美意識の差》

美とはなにか。日本と西洋では美しいものそのものを愛する心は同じですが、何を美しいと感じるか、また、それをどのように表現するかという点では大きな違いがあります。

美という漢字は、中国からきたものですが、美とは大きくて立派な羊のことです。だから羊に大きいと書いて美なのです。小さなものより大きな羊の方が豊かで人にとって良いことがあるからです。

古来日本では美にことを「うつくし」と呼んでいました。奈良・平安の頃は、今日とは多少違った意味で用いられていたようです。例えば、奈良時代の山上憶良の「妻子(めこ)見れば、めぐし(愛し)うつくし」という歌にみられるように、今日でいう愛らしい、かわいらしいという意味だったようです。つまり、対象のかたちの特色よりも、例えば妻子を見る自分の愛情表現の言葉だったわけです。

これは、自分にとって大事なもの、弱いもの(かわいいもの、小さいもの)への愛情表現であり、平安時代になると清少納言の「枕草子」にある「なにもなにも小さきものは、いとうつくし」というくだりもよく表れています。英語に直訳すると「スモールイズ ビューティフル」ということになるでしょう。

それでは、同じ頃に花や月が今日的な意味で美しいということをどのような言葉で述べていたかと言うと、奈良時代は「くはし」、平安時代では「きよし」でした。「くはし」は今日の「詳しい」から類推されるように、「非常に細かいところまではっきりしている」ということです。万葉集の「いでたちの くわしき山ぞ」という歌は山の細かい姿・形がはっきりわかるという意味で、それが同時に今日の美しいにあたります。ここから、微細なものに対する視点という日本人の美意識がわかるのです。

もう一つは、「きよし(清し)」で、源氏物語に「きよらなる、たまのおのこみこさえ生まれたまひける」という一節があります。これは清潔という意味ではなく、「玉のように美しい王子様がお生まれになった」ということです。

以上に述べたことを西洋との比較によって整理すると、まず日本では、美は対象そのものよりも、見

る人の心情に結びつくという「心の美学」の特質があります。一方ギリシャ以来の西洋では、対象そのものが、ある一定の条件を具えていれば、見る人に関係なく、万人にとって美しいと考えます。

この一定の条件を探求するのが美学なのです。ギリシャ以来、どういうものが美か、という問題はさんざんに議論されてきました。そして美の基準はギリシャで完成され、それが西洋に継承されました。代表的なものを挙げれば、人体比例やシンメトリー、あるいは幾何学的に完成された形が美しいという考えです。また、「花はさかりに、月はくまなきもののみ見るものかは」というくだりに示されているように、日本では必ずしも完全なもののみが美しいものではない、という美意識があります。これは見る人の心によって美が成立するという考え方で、西洋と大きく異なるところです。

次に「くわし」に見られるように、小さいものや、細かいところに美を見いだすという美意識ですが、これは西洋とは正反対です。アリストテレスが、美を感じるためには、ある程度のスケールの大きさが必要であると述べているように、西洋では巨大なもの、圧倒的な力をもったものが美の条件とされてきました。

ここで、ギリシャ神話の「パリスの審判」を思い出してみましょう。エリスの黄金のリンゴをめぐる、ヘラ、アテネ、アフロディテの三女神が「最も美しい女」を主張して争ったので、何故かゼウスはトロヤの王子パリスに判断を委ねました。そこでこれらの女神はパリスに、「もし自分を選んでくれたら褒美をあげよう」ということで、ヘラは「富と権力」を、アテネは「戦争に負けない力」。そしてアフロディテは「世界で最も美しい女性を妻とすること」を提案しました。結果として、パリスはアフロディテを選び、褒美として人妻であったヘレナを得たことでトロイ戦争がおこったのです。

このエピソードで注目したいのは、褒美として示された、富や権力、武力といったものがすべて美と結びついていることです。つまり、西洋ではギリシャ以来、いいものが沢山あればあるほど、美は増大すると考えてきました。これは、日本の「きよし」の美意識と全く逆です。きよい、ということは、本来、汚れたもの、余計なものがないという意味であり、日本人はそこに美を見いだしました。これは「切り捨ての美学」ないしは「否定の美学」であり、例えば絵画の表現を例にとってみると、西洋は何でも描くが、日本では「余白の美」といわれるように、余計なものを切り捨てていくということにつながるでしょう。

このように日本人と西洋人は何が美しいということに対する基本的な考え方が異なり、それが美意識の差となるのです。

《日本の色の話 一色と生活一》

古代の色は4色であった。

《日本人の生活 一衣食住の文化一》

衣 洋服と和服 食 「うまい」の探求
住 壁立 柱立ち

《桜の話（老幹新枝）》

老幹新枝とは、たつぷりと時代を経た太い幹に若い枝が生える活力のこと。老幹とは伝統的文化、新枝は元気にすくすく伸びる若い力。

奈良時代には中国文化の影響が強く、和歌で単に花といえば梅を指していました。現代では、桜は、春を象徴する花として日本人にとって特別な地位を占める花です。公式には国花ではないものの国花のひとつのように扱われています。イギリス人が花といえばバラであり、オランダ人にとってはチューリップというように歴史や民族で異なります。

《おわりに（ストラップの話）》

お正月には、神社仏閣などに初詣に行かれる方もいらっしゃると思います。寺院や神社や屋敷にもいろいろぶら下がる鐸があります。松岡正剛「百辞百物百景」の「鐸」によると、五重塔の風鐸、吊り灯笼、神社の鈴、軒下の風鈴、これらは一種の魔除けです。鐸とは、サナギのことです。もともとは蛹(きなぎ)でもあって、その中に何か神か生命が宿ることを暗示していました。昆虫などの蛹が宿るのは新しい生命ですが、もっと見えないスピリチュアルな力が宿ると想定されました。宿るものは、神様やスーパーパワーだったのかもしれませんが。

北方シャーマンは、ジャラジャラと音がする鉄鐸を腰にぶら下げ、南方のダンサーは、動物のトーテムを身体中からぶら下げました。やがて江戸の根付や腰にぶら下がる時計や携帯ストラップや鞆アクセサリーまで及びました。今日の携帯電話のストラップなども古代日本の鐸に繋がるものだと思います。

私は生活に関係ないことが大好きで、気にかかる性分です。お正月の初詣のときなどに「鐸」を思い出していただければ幸いです。



第2581回例会

日時⇒ 平成29年3月31日(金) 点鐘12:30

卓話⇒ 『恩賜財団共済会の使命

—保健医療福祉の総合サービスの実践—』

社会福祉法人恩賜財団済生会本部

理事 松原 了(さとる)様

第2582回例会

日時⇒ 平成29年4月7日(金) 点鐘12:30

卓話⇒ 会員ミニ卓話

<会報当番：北田 城児>